



## 思いやりのある子どもに

学校長 小紫 達矢

昨年の5月は3月からの臨時休校が続いている最中でした。教職員は、児童の学習のプリントを作成したり、各家庭への連絡をしたりする毎日でした。昨年度の「子午線5月号」に、私は「学校は、子どもたちの明るい声と元気な姿があってこそ本来の姿です。子どもたちのいない学校は本当に寂しい限りです。1日も早く新型コロナウイルスの感染が終息することを願ってやみません。」と書きました。残念なことにその当時と比べて感染者数は増加し、3回目の5月11日までの緊急事態宣言が兵庫県にも発出されました。4月24日に予定していた授業参観も参観が中止になり、3時間目までの通常授業になりました。楽しそうに学んでいる姿、先生の話や友だちの意見を真剣に聞いている姿、集中して問題に取り組んでいる姿など保護者の皆さまに参観していただきかけた姿をいっぱい見ることができました。その時の各クラスの様子をホームページにもアップしました。少しは学習の雰囲気が伝わるかと思います。是非、本校のホームページをご覧ください。

この様な状況の中でも、現在のところ三木小学校では、臨時休校、学年・学級閉鎖、一斉下校等、新型コロナウイルス感染症の影響による緊急対応を行うことなく、教育活動を行うことができています。子どもたちの元気な姿のある学校という当たり前のことを有り難く感じています。

ただ、何もせずに通常の教育活動が行えているわけではありません。教師からの声かけなどがありますが、子どもたち自身が、感染予防としてみんなが行うべきことを当たり前のこととして行っていることが大きいと考えています。登下校の時にマスクを忘れていた子はなくなりました。校舎に入るときは、必ず手洗いをするのは習慣づいています。右の写真のように体育や理科の観察など屋外の活動でもマスクを着けて行っています。いろいろな検診でもきちんと距離をあけて静かに待っています。

30歳代のコロナ感染者の内重症になる割合を基準とした場合、10歳未満は0.5倍、10歳代は0.2倍です。つまり、子どもの方が重症化しにくいです。逆に年齢が上がると、40歳代で4倍、80歳代で71倍にも増加します。高学年の児童と比べると、80歳代の方は、140倍の重症化リスクになります。子どもたちには、自分たち一人一人の行動が、自分だけでなく回りの友だち、家族、地域の方々の健康な生活に影響があることを知り、当たり前の感染対策を当たり前のこととして実行していくそんな思いやりをもった行動を実践して欲しいと思います。学校でも子どもたちに引き続き子どもたちに指導を行います。ご家庭でも子どもたちにお話しいただければと思います。よろしく願いいたします。



【短距離走のタイムを測る】



【理科の観察記録を記入する】



【検診の順番を待つ】